

Smart Editor Ver. 1.0.2.0 バージョンアップ情報



	V10	V9	TS2060i/TS2060	V8i(N)/V8(N)	X1
本体プログラム	Ver. 1.400	Ver. 3.200	Ver. 2.450	Ver. 2.390	Ver. 1.900 ^{*2}
OS	Ver. 1.50 ^{*1}	Ver. 5.00 ^{*1}			

^{*1}アップデートするには、ストレージが必要です。

^{*2}X1のアップデートプログラムはホームページからダウンロードしてください。アップデート手順は同梱の『アップデート手順書』を参照。

接続

1 接続可能機種追加：富士電機 FRENIC-MEGA(G2) (MODBUS TCP/IP)

対応機種：V10/V9/TS2060i、X1

接続機種：富士電機 FRENIC-MEGA(G2) (MODBUS TCP/IP)

2 接続可能機種追加：富士電機 FRENIC-Ace(E3) (MODBUS TCP/IP)

対応機種：V10/V9/TS2060i、X1

接続機種：富士電機 FRENIC-Ace(E3)(MODBUS TCP/IP)

3 接続可能機種追加：富士電機 FRENIC-Ace(E3) (MODBUS RTU)

対応機種：V10/V9/TS2060、X1

接続機種：富士電機 FRENIC-Ace(E3)(MODBUS RTU)

4 接続可能機種追加：三菱電機 iQ-Rシリーズタグ (内蔵Ethernet)

対応機種：V10/V9/TS2060i、X1

接続機種：三菱電機 iQ-Rシリーズタグ (内蔵Ethernet)

【概要】

タグとPLCデバイス両方使用可

5 接続可能機種追加：キーエンス KV-8000タグ (Ethernet UDP/IP)

対応機種：V10/V9/TS2060i、X1

接続機種：キーエンス KV-8000タグ (Ethernet UDP/IP)

【概要】

タグとPLCデバイス両方使用可

6 接続可能機種追加：チノー LT23A (MODBUS RTU)

対応機種：V10/V9/TS2060/V8、X1

接続機種：チノー LT23A (MODBUS RTU)

7 ラダー転送 仕様拡張：1:n接続対応

対応機種：V10/V9/TS2060

接続機種：富士電機 FRENICシリーズ (ローダ)
富士電機 FRENIC-MEGA(G2) (MODBUS RTU)
富士電機 FRENIC-Ace(E3) (MODBUS RTU)

【概要】

一部の機種で、1:n接続のラダー転送機能に対応しました。

8 Ethernet(TCP/IP)接続 仕様拡張：通信ポート番号自動割り当て

対応機種：V10/V9、X1

【概要】

PLCとTCP/IP接続する時、モニタッチの通信ポートを自動割り当てできるようにしました。

【設定箇所】

プロジェクトビュー → [ハードウェア設定] タブ → [MONITOUCH設定] → [本体設定] → [環境設定] → [PLC]
→ [TCP/IPのPLC通信用ポートを動的に割り当てる] にチェックします。

9 Ethernet接続 仕様拡張：KeepAlive対応

対応機種：X1、TELLUS5/TELLUS4/TELLUS4 (iPad)

【概要】

PLCとEthernet接続する時、KeepAlive機能が使えるようになりました。通信ダウンを早く検出できます。

【設定箇所】

プロジェクトビュー → [ハードウェア設定] タブ → [接続機器] → [8Way通信] → [PLCnプロパティ] → [通信異常処理：切断]
→ [KeepAlive使用：する] を選択し、PLCテーブルの [KeepAlive] にチェックします。

機能

1 ビデオ入力/RGB入力/RGB出力対応

* OSのアップデートが必要

対応機種： V10xxiSxxG

オプションユニット型式：

GUX-00：ビデオ入力4CH

GUX-04：ビデオ入力1CH

GUX-01：RGB入力1CH

GUX-11：RGB入力2CH

GUX-02：RGB出力1CH

GUX-10：ビデオ入力2CH、RGB入力1CH

【概要】

V10シリーズ Gタイプの本体に、オプションユニット「GUX-xx」を装着することで、ビデオ入力/RGB入力/RGB出力ができます。

2 Webサーバ機能対応

対応機種： V10

* OSのアップデートが必要

【概要】

PCやタブレットでブラウザ（Chrome）を起動して、ネットワーク上のV10のモニタ/操作が行えます。

①閲覧ソフト不要

PC/タブレットに、Chromeがあればモニタ可

②非同期表示

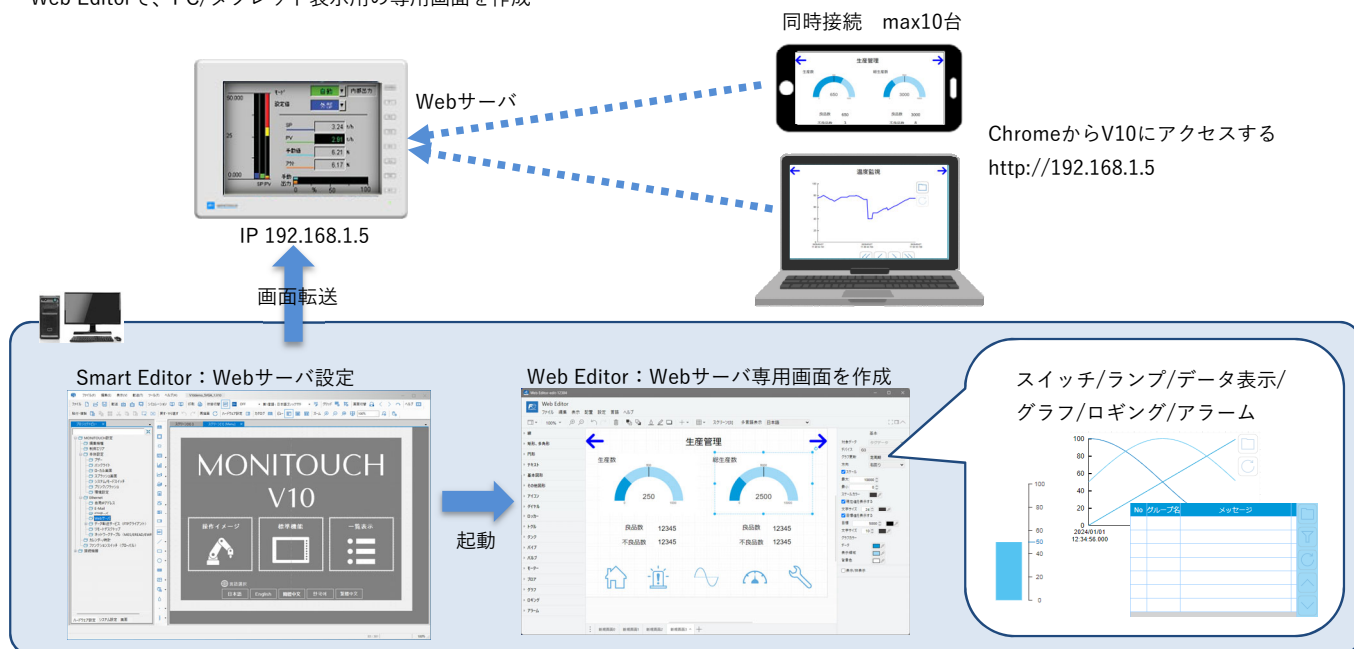
PC/タブレットとV10本体は、異なる画面を表示可

③マルチセッション

複数のPC/タブレットから同時に接続可（max10台）

④Web画面

Web Editorで、PC/タブレット表示用の専用画面を作成



3 HP製プリンタ 対応型式追加

対応機種： V10

* OSのアップデートが必要

【概要】

V10シリーズで、接続可能なプリンタ型式が増えました。

参考：https://hakko-elec.co.jp/img/ja/pdf/prINTER_list_j.pdf

4 タイムサーバ接続対応

対応機種： V10/V9

* OSのアップデートが必要

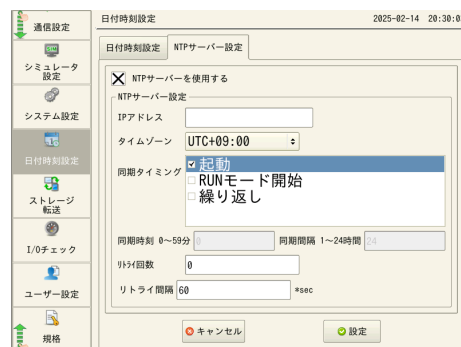
【概要】

タイムサーバ接続に対応しました。時計をタイムサーバと同期できます。

【設定箇所】

本体 [ローカル画面] → [日付時刻設定] → [NTPサーバ設定] →
[NTPサーバを使用する] チェックあり
NTPサーバのIPアドレス、同期タイミング等を設定します。

画面データプロジェクトビュー → [ハードウェア設定] タブ → [MONITOUCH設定] →
[カレンダー/時計] → [内蔵時計を使用] チェックあり



5 システムデバイス追加 \$s1019

対応機種：V10/V9/TELLUS5/TELLUS4

【概要】

システムデバイス\$s1016に、マクロコマンドMOVで値をセットすると、\$s1018にバージョン情報、\$s1019に本体の識別コードを格納します。

【システムデバイス】

\$s1016	0：本体プログラムバージョン 3：フォントバージョン 4：OSバージョン 10：PLC1ドライババージョン 11：PLC2ドライババージョン 12：PLC3ドライババージョン 13：PLC4ドライババージョン 14：PLC5ドライババージョン 15：PLC6ドライババージョン 16：PLC7ドライババージョン 17：PLC8ドライババージョン 18：シミュレータバージョン 22：日本語変換（FEP）プログラムバージョン	MOVで書込 →V
\$s1018	\$s1016にセットした値を元にバージョン情報を格納	V→
\$s1019	本体の識別コードを格納 1：V9/TELLUS4 2：V10/TELLUS5	NEW V→

【設定例】

スイッチONマクロで \$s1016=4(W) を実行



\$s1018に OSバージョン

\$s1018=140 の場合 OSVer.1.40

\$s1019に 識別コード が格納されます。

\$s1019=2 の場合 V10シリーズ

6 カメラ機能によるバーコード読み込対応

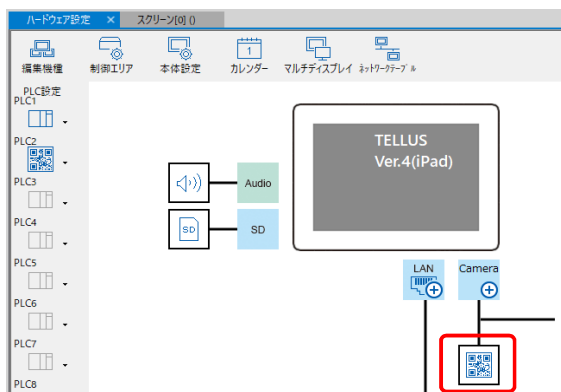
対応機種：TELLUS4(iPad)

【概要】

iPadのカメラ機能を使った、QRコード/バーコードの読み込に対応しました。

【設定箇所】

プロジェクトビュー → [ハードウェア設定] タブ → [MONITOUCH設定] → [ハードウェア設定] → [Camera] を設定します。



7 拡張帳票印刷 機能改善

対応機種：X1、TELLUS5/TELLUS4

■文字の鮮明化

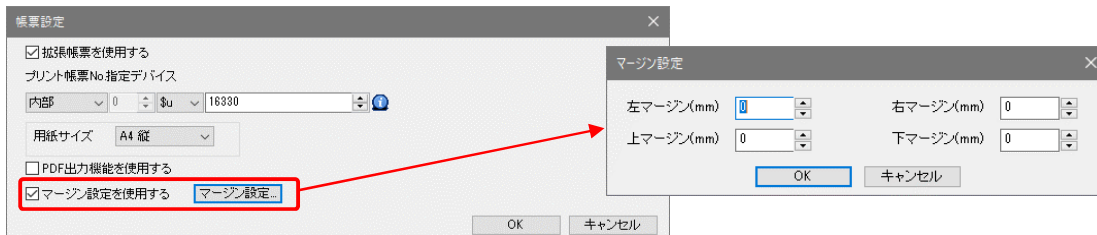
【設定箇所】

プロジェクトビュー → [ハードウェア設定] タブ → [MONITOUCH設定] → [本体設定] → [環境設定] → [印刷/PDF出力] → [拡張帳票のPDF印刷時に文字描画を鮮明にする] にチェックします。

■余白調整

【設定箇所】

プロジェクトビュー → [画面] タブ → [帳票] → [帳票設定] → [マージン設定を使用する] にチェックして、[マージン設定] を行います。

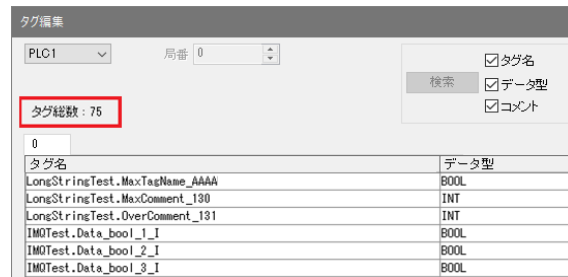


作画ソフト

1 Siemens製ソフトTIA Portal インポート機能拡張

【概要】

- TIA Portal Ver. 19で作成したTIA プロジェクトファイル (*.ap19) をインポート可能です。
- TIA Portalの設定で、以下のどちらかにチェックがある場合のみインポートを実行します。
 - Properties→Attributes→Data block accessible from OPC UA
 - General → Attributes → Usage → Accessible from HMI /OPC UA /Web API
- インポート実行後、タグの総数を表示します。



2 トレンド 表示ポイント数拡張

対応機種： TELLUS5

【概要】

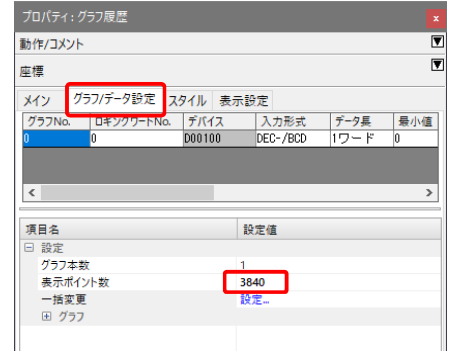
トレンドパーツの [表示ポイント数] を最大3840に拡張しました。
 [サイズ：3840 x 2160] の画面作成時、
 トレンドのポイント数を3840まで設定できます。

【設定箇所】

トレンドパーツ → [グラフ/データ設定] → [設定] → [表示ポイント数]

【注意】

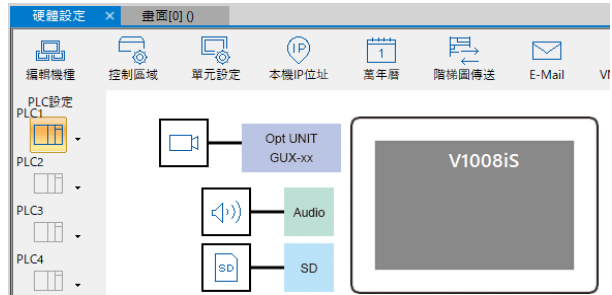
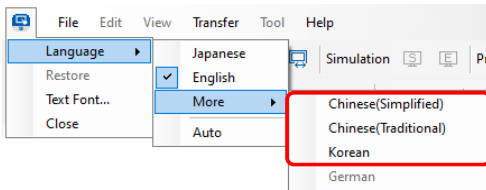
トレンドパーツの [幅] より大きい値を設定しないでください。グラフが正常に表示できません。



3 多言語対応

【概要】

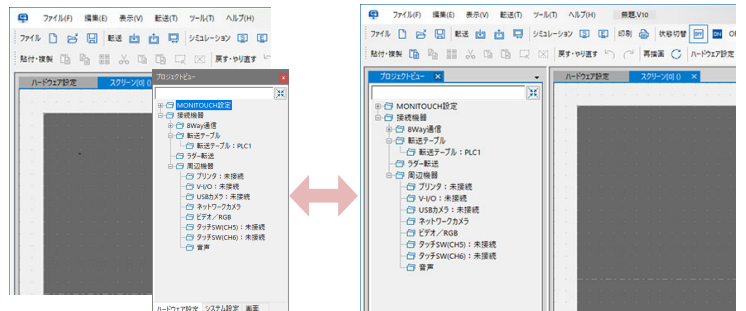
中国語（簡体字）/中国語（繁体字）/韓国語 のメニュー表示に対応しました。日本語以外のOSにインストールした時、選択できます。



4 動作改善

■プロジェクトビュー

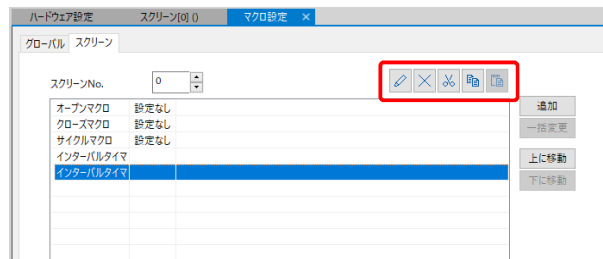
フローティング状態にした際に、
 編集ウィンドウが左詰めになります。
 ダブルクリック、または ドラッグ&ドロップで元に戻ります。



■マクロ設定

[切り取り] / [コピー] / [貼り付け] ボタンを追加しました。

対象： スクリーン
 オーバーラップライブラリ
 スクリーンライブラリ



■エラーチェック

マクロ内にエラーが含まれる場合、マクロ編集画面を開かなくても
 エラーチェックで検出できるようになります。

【設定箇所】

エラーチェックのプロパティ
 [マクロの異常データを検出する] にチェックします。

